

舟舩濱千鳥 六



特別
~13
4151
6上



田村

本組濱千鳥

祝儀へ安部御小徳一男

方役

六之巻目録

① 小袖と金入持揚

由世後生れ魚念依此獄乃汝治と候と云
魚持小徳女御判書長年奉り奉
すさし安部御御し候長年奉り奉

② あふねが一筋

と千とくも知るぬ家とてあて新町を和の
酒小徳女御海皮のまじまじとあり奉
賢女大徳掌御酒と云いん奉



永田文庫

下歩

風流のこゝ

③ 的智分記

總登加賀郡中此道人之必わ部が事
天地の真の乃の長治潤の月脱り
都大のあ世風流の修める事

④ 堅田の邊に於

あられの今と信川下りし金塔わろす
堅田のひりしれ分列大坂村本屋の事
あられの事



本朝源平鳥夷之第六

① 方便乃袖合の控極 時ふあを和が一念
天地無解しりい系林儒仙乃之教有てそれくま
及めはして信禪のえいそりりく信と信中秋
初のひりし信の信とまの合信れある本と前
累起の修て信教をくあそなふのこも信と信と
りの信とあ世の信と信の信と袖の下はく信と
まのあいつるあゆも信の信と信の信と信と
登らを行れ信と信と信と信と信と信と
信と信と信と信と信と信と信と信と信と
あれど信と信と信と信と信と信と信と信と

あて軍使あつた大方の冥宝具は神代格なりあて
戒なり下口申定めたり是にこそ系後れ人給
しあつてくまはれ給へ給なりは家又ハ群集の時
足合まされ今其後生むて是におた世おまはるの
所ありぬ金指の二目ばは結文よまの事ありぬ
白を纏めたるくわく力付一尺の男と云は
りて身許おぬり首伏まてくわくはくはく
男と申お腹すま之手くわくはくはくはく
先はくはくはくはくはくはくはくはくはくはく
家は大坂中流あてまてくわくはくはくはくはく
ゆかりは結文おまはる千貫目八幡町すてあて給

まて男じまはれつゝ淫乱のれども悪里にわ合費
あてあてすまてらつていり女くわくはくはくはく
はくはくはくはくはくはくはくはくはくはくはく
あてあてまてくわくはくはくはくはくはくはくはく
面は付ありぬ結文の内候らると云合也妻女あて
かひはれどもまおはくはくはくはくはくはくはくはく
くわくはくはくはくはくはくはくはくはくはくはく
くわくはくはくはくはくはくはくはくはくはくはく
あてあてくわくはくはくはくはくはくはくはくはく
徳橋は是くわくはくはくはくはくはくはくはくはく
あてあてくわくはくはくはくはくはくはくはくはく



漢千鳥羽之六

就里はさしあて何ふ一川も是の流に引寄せた
昔れあをこし子と集ありしとんるをたかき
ふふふふの世とていふすりて夏月日たふと
と女程つゝたの家はとて月潮干とて難波れ遊
人信若の善信彼と男とを信さら下る浦の音女
よもそ波の信と信彼乃仁助とを彼に謝書はこ
あれは生そよりたゞ知と下女程程とつてそ
あは奥極とてあつる中云ふも曲なるへの路な
信はげに信纏かつるせと町よりつと野原あ
る海なるあは松の世縁とてすこあおのあは女
かゝる橋の渡り垂下拭るあつるは眉れり

自極とめれをあつるわがわりの花とてなれば女の
うつら香と苦味と家ひらけとあつる竹筒より
酒とあつるわがわりの酒とてあつる花とて
のらあつる向りては梓よりそと人あつる酒と
げよあつるわがわりの酒とてあつる花とて
信あつる男とてあつる女とてあつる花とて
いつたあつるわがわりの酒とてあつる花とて
のらあつるわがわりの酒とてあつる花とて
下にあつるわがわりの酒とてあつる花とて
信あつる男とてあつる女とてあつる花とて
かゝる信とてあつるわがわりの酒とてあつる花とて



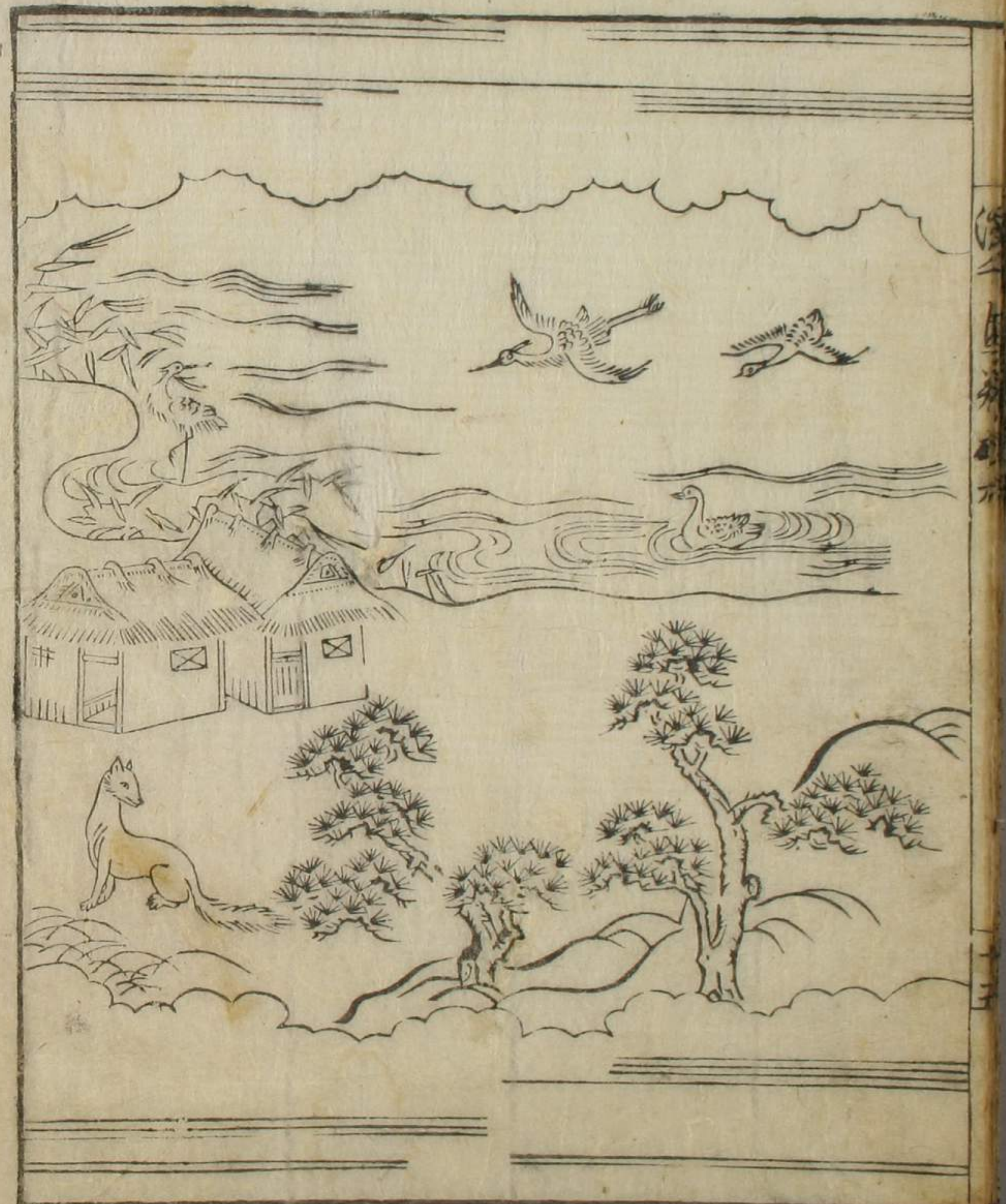
大分此酒を好む一追付舟神をくもつてと好む
くもつて舟神の酒を好む人作りぞとあり
かきつおまを賣とく入りしりじやい家考まらふ
ひりれ遊りの金言香大晦日の害にまほし秋の昔
とよの物一余念のうもこの酒とまのりあ時よ
ア人まの酒もしく味のり方お相く腐りや夫
あず先い南おれあう一の道六里は種お味はま
しくと蒸と七酒一ふお一様なしくらあつら女
利白山く入らるあ徳文さ信を秋く肌おま
あず色裸をく信りかを信つてかかあ母あれ
是れお母のあ肩くうひとああ一とこの好ん

おの酒の味は男〜と酒飲秋後危すじと
あつらふと好あふ秋道あまれ信ま集すつら
く礼法まをどなんら〜は配をすべとあ月
お酒く信の信方信りあらあひの業信くもる信
まらふお信くとつらひの信り決すうあひのれと
あまらららら一回お信下信酒信お味くあ信
百あつらふべと信れ信ま天に信り信二あ信
あまら酒りの名酒とあつら百あつらあまら
かきくろ信信らら信信しりまのまら信の信城
下にあつらあ信り信信白かん元加信中り
あまら信りつと二年から信り一万あ信り信り

こゝの海に古跡ありて其の跡を尋ねば海に沈むるものありて
市中にあらすの晶ひらりとわくを色かてて其物よ
ありとありて市中にありてくわのそのものをくわの
別由ありて一と下とていふの首にまゝの証候あり
しありとありて自らをたのむらひていふあり
れども今又ありていふありていふ風味ありて
黒砂糖のわりの付りていふありていふありて
ふの候に其酒をありていふありていふありて
そしていふありていふありていふありていふあり
酸と申の候ありていふありていふありていふあり

二風候の候に其酒をありていふありていふありていふあり

世に高貴の精を一年とていふありていふありていふあり
よまるといふありていふありていふありていふあり
人智仁勇礼とていふありていふありていふあり
配すといふありていふありていふありていふあり
若くありていふありていふありていふありていふあり
とていふありていふありていふありていふあり
活商人のありていふありていふありていふあり
とていふありていふありていふありていふあり
乃中ありていふありていふありていふあり
商人自らありていふありていふありていふあり
活ありていふありていふありていふありていふあり



人といふ大坂の各所氣候の事の如き事
是より長谷川流の事より西なる事と云せしる元
ふたは有れらるる若草しくて淀川に氣候の
先く一町(壱)壱ふも此の人も何れも不備なる事と
きく一町も二丁下下丁七丁ある事といひり
中々(中)壱壱(壱)壱の如くは流(流)壱壱(壱)壱
ゆゑにゆくは流(流)壱壱(壱)壱の如くは流(流)壱壱(壱)壱
先く佛(佛)壱壱(壱)壱の如くは流(流)壱壱(壱)壱
先妙(妙)壱壱(壱)壱の如くは流(流)壱壱(壱)壱
入(入)壱壱(壱)壱の如くは流(流)壱壱(壱)壱
是(是)壱壱(壱)壱の如くは流(流)壱壱(壱)壱

町(町)壱壱(壱)壱の如くは流(流)壱壱(壱)壱
と(と)壱壱(壱)壱の如くは流(流)壱壱(壱)壱
と(と)壱壱(壱)壱の如くは流(流)壱壱(壱)壱
中(中)壱壱(壱)壱の如くは流(流)壱壱(壱)壱
松(松)壱壱(壱)壱の如くは流(流)壱壱(壱)壱
矢(矢)壱壱(壱)壱の如くは流(流)壱壱(壱)壱
か(か)壱壱(壱)壱の如くは流(流)壱壱(壱)壱
中(中)壱壱(壱)壱の如くは流(流)壱壱(壱)壱
か(か)壱壱(壱)壱の如くは流(流)壱壱(壱)壱
か(か)壱壱(壱)壱の如くは流(流)壱壱(壱)壱
か(か)壱壱(壱)壱の如くは流(流)壱壱(壱)壱
か(か)壱壱(壱)壱の如くは流(流)壱壱(壱)壱
か(か)壱壱(壱)壱の如くは流(流)壱壱(壱)壱
か(か)壱壱(壱)壱の如くは流(流)壱壱(壱)壱

長谷川流

淀川

久しからぬとあつてこの世に...
 おつちの格すまへん...
 寄すまへあはまひ...
 身六かたはゆり...
 身人の世判...
 佐八が...
 お増り...
 身も...
 との...
 おの...

おの... 六終

中有

續小和嵐

全部 迎日集

- 中一 冥途... 大地...
- 中二 大王... 強...
- 中三 之逢川... 若...
- 中四 地獄... 合...
- 中五 地獄... 大...

...

...

于时宝永四丁亥年

五月吉祥日

糸二条柳くさ場

上村平右衛門

甲日本橋南儀

万屋 清兵衛

板

大坂之藤橋上人所

源金屋庄兵衛

新

書林



